

泊つた事 千葉省三

(2)

われらは拜殿へ上つて戸を開けて中へはいりこんだ。眞暗で何一つ見えない。かくさい匂ひがブーンと鼻につく。

『安ーどこだ!』
『こゝだ、こゝだ!』
隅の方で聲がする。

やがてシニットとマツチ音がして、蠟燭に灯がまたまた。おさいせん箱だ。

の繪馬だの、奥の方の幣束だのが、ぱんやり浮上つて見えて来た。

勝治はもう隅の壇敷の上に陣取つて風呂敷をひろげてゐる。

『こつちさうこうよ!まだ寝て、勝治もおめえ、六鍛冶あひながら話でもすべえよ』
『そんでおめえ、六鍛冶あひなつてとんで来て水車場の吉助の背戸から、ころげこんだんだだけ』

安はたうもろこしをかちつちやしやべり、かちつかきながら聞いてゐる。

蠟燭の灯がときどきいきをつく、その灯のとゞかな向う側には、板戸のすきよで麥飯つかつこんでゐる。『そんなとき、吉助は爐傍にいた。なんち騒ぎにも、からん騒ぎにも、おらいま深里から山越しで歸つて來たんだが西山の魚の子藻で、牛みていふんだと』

『云つたので、おらはドソ笑ひ出した。蠟燭の灯が消えました』

『あんまり云ふもんだから』

○田舎の父兄手紙を送り来る。
○田舎の父兄手紙を送り来る。

三とせばへ學寮に送りたびし口調下にねえから、おら息切らして!』

店先に埃かづきてありにけむ父の姿のおもかげに見ゆ
細り住みたまゝなる父は云はず舊正月の餅をたまへり

ふるさとのおがおこせしこの餅はだの粗きもれしかりけり
草あいゝや、あゝいとこきをした。『どうして又、そんなこと

飛んで來たんだあ、おめえ、こんな奴に出られちやあ、さうしたこと云つて、は

坂『玄伯老居るとは幸ひ出だた。『そんなこつたと思つた』

春光陽々温く流れて

地は産業の榮光に満つ

けふ昭和博覽會開館式

村井知事其他多數來賓を迎へ

曉靄を突いて沖天高く般々と炸裂する煙火！煙火

物の總動員と云つた形で夜は明けて行く、博覽

會の第1日が奏する行進曲の何と朗かなる事よ、

此の1日一天インデゴオに晴れ亘り、未だ少しくう

そら寒けれど駄蕩の風騒々と場内に張り渡した萬

國旗を襯へし、絶好の開館日和である、放送塔よ

り流れる管絃樂のメロディーに來賓數百の足ざりも

軽やかに會場として綴々と詰めかけ斯くして式は

定刻より稍々遅れ午前十時三十分より着席を始む

機宜の企劃を祝福

式後現場で清宴を張る

に存するなり然りと雖我

國産業の趨勢を觀るに多

年經濟沈滯の後を承けて

國富漸く匱しく甚に金輸

出を禁止し世界市場の公

界をして當道に復せし

め、進んで産業の健實な

發達を圖ることは我國

未だ以て遅に貿易の頗勢

を挽回するに到らず我經

済界の趣勢を觀るに多

く、而して之が目的

達成の方途固より多岐な

民一致協力を要すべきの

秋なり、而して之が目的

文化の一大殿堂

各館出陳品概要

現代、精粹を蒐めだ

、鈴木辰三郎

平均率を突破する

平町の優良兒童

中等學校入學試驗成績

入学率を見ると

磐中志願三百八十三名中

二百五十名採用（六割五）

三）高女三百七十三名中

二百名採用（五割三六）商

業八十六名中百十三名・

五百三十名採用（六割五）

四）高女三百七十三名中

三百七十五名採用（六割六六）

（七割〇五）平商四二の内

（七割〇一）△第三磐女一（全部

（七割〇一）△第二磐中八の内五五

（七割〇一）△第一磐中七八の内五五

（七割〇一）△第四磐中八の内七

（七割〇一）△第五磐中八の内七

（七割〇一）△第六磐中八の内七

（七割〇一）△第七磐中八の内七

（七割〇一）△第八磐中八の内七

木村女校長勇退

功成名遂げた篤行家

無罪を言渡せる

正當防衛として

無罪を言渡せる

正當防衛として

春宵を飾る雪洞

消防組が目下奔走中

雛人形陳列

ヴィジョンに就てと題する

講演會を開催する

講演會を開催する